



乳房の症状や病気

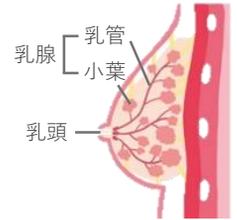


乳房に痛みやしこりがあって不安になったこと、ありませんか？

乳房の病気と言えば「乳がん」を想像する方が多いかもしれませんが、その他にも様々な病気があります。

乳房の構造

乳房は、乳腺組織とそれを支える結合組織、脂肪組織などから構成されています。乳腺は母乳を作る小葉と母乳の通り道である乳管から構成されており、乳腺組織は、15～20の腺葉（小葉の集まり）に分かれています。これらが少しずつ合流し、1本の乳管となって乳頭に出ます。



症状から考えられる病名

痛み 乳房痛 のう胞 乳腺炎

腫れ 乳腺炎 乳がん

変形 乳がん

しこり 石灰化 乳管内乳頭腫 線維腺腫

乳腺症 葉状腫瘍 乳がん

分泌物 乳管内乳頭腫 乳腺炎 乳腺症

乳がん

それぞれの病名について

乳房痛

70%以上の女性が一度は経験すると言われています。痛みが月経周期と一致しており、月経1週間前に増強し、月経が始まると軽減することが多い（PMS症状の1つ）のですが、月経周期と関係のない場合もあります。いずれの場合も乳がんとの関係は少なく、マンモグラフィや超音波検査（エコー）で異常所見がなければあまり心配する必要はありません。

のう胞

乳管の中に液体が溜まって袋状になったもので、数mmから5~6cmになるものまであります。女性ホルモンのアンバランスが原因とされ、多くの女性に見られます。基本的に治療の必要はありませんが、痛みの緩和のために細い針を刺して中にたまった液体を抜き取ることもあります。

一般的に良性ですので心配ありませんが、大きくなってくると中に乳がんができることがあるので注意が必要です。超音波検査（エコー）で確認できます。

石灰化

カルシウムが沈着することによって起きる変化で、一般的にはマンモグラフィで調べることができます。石灰化は乳がんでも見られることがありますが、良性のしこりや正常な乳腺でも見られることがあります。石灰化の形、大きさや分布の状態などから、がんに伴うものかある程度区別できます。良性と判断できない場合は定期的に検査が必要な場合があり、がんによる石灰化が疑われる場合には、針生検や組織の検査が必要です。

乳管内乳頭腫

しこりや乳頭から分泌物が出るることがあり、分泌物には血液が混じることもあります。乳がんとの鑑別が難しいですが、悪性化の可能性は極めて低いので、針生検で乳頭腫の診断がつけば切除する必要はありません。

乳腺炎

乳腺に炎症や細菌感染を起こし、赤く腫れたり、痛みや熱感・高熱を伴うことがあります。授乳期に起きる「うっ滞性乳腺炎」「化膿性乳腺炎」が主ですが、授乳期でなくても、乳頭から細菌が入って乳腺炎を起こすことがあります。また、はっきりした原因が分からない難治性の乳腺炎もあります。

乳腺症

女性ホルモンのアンバランスが原因で、乳房に痛みや小さなしこりがたくさんできたりします。マンモグラフィや超音波検査（エコー）などで乳腺症と診断された場合は基本的に治療の必要はありません。ただし、乳がんとの鑑別が難しいしこりや石灰化を形成することもあります。そのような場合には、組織の検査などが必要なこともあります。

線維腺腫

20代～40代の女性に多くみられるしこりで、大きさは2～3cm程度、弾力があって触るとよく動き、痛みはないのが一般的です。

女性ホルモンの影響で形成されると考えられており、自然に消えてしまうことも珍しくありません。基本的には経過観察をすることがほとんどで、がんにも変わることも稀です。ただし、葉状腫瘍や乳がんとの鑑別が難しい場合があります。マンモグラフィや超音波検査（エコー）に加え、組織の検査によって診断することができます。

葉状腫瘍

急速に大きくなる傾向があり、悪性化する可能性のある腫瘍です。良性か悪性かの区別が難しく、また線維腺腫とよく似ており、葉状腫瘍が疑われる場合は切除が必要になります。また、切除後でも再発をきたすことがありますので、定期的な検査が必要です。

乳がん

一般的に乳腺の組織にできるがんです。主な症状はしこりです。乳房にくぼみやただれができる、左右の乳房の形が非対照になる、乳頭から分泌物が出るなどの症状もあります。乳房の周りのリンパ節や骨、肺などに転移することがあります。

乳がんは自分で見つけることのできるがんの1つです。月に1回日にちを決めて、入浴や着替えのときに見たり触ったりしてセルフチェックを心がけましょう。閉経前の方は月経終了の4～5日後がタイミングの目安です。ただし、セルフチェックでは見つけられないこともあるため、定期的に乳がん検診を受けることも重要です。

しこり、くぼみ、ただれ、左右非対照、
乳頭から分泌物 などがないか



マンモグラフィ検査、
超音波検査（エコー）



セルフチェックの習慣化 と **定期的ながん検診** で、

乳がんやその他の病気の早期発見・早期治療に繋がります！

乳がん検診

超音波検査（エコー）

超音波検査（エコー）は皮膚にゼリーを塗り超音波を出す機器（プローブ）を胸に当て検査します。検査時間は15分程度です。乳腺内の腫瘍や乳管拡張などの変化を観察します。

妊娠時の胎児を見る機械と同じですので痛みはありません。

乳腺組織が豊富な乳房でもしこりを発見することができるので、比較的若い方向けの検査です。



マンモグラフィ検査

圧迫板で乳房を薄く広げて撮るレントゲン検査です。検査時間は10分程度です。腫瘍や石灰化・乳腺のゆがみなどを確認します。妊娠中の方は受けられません。

乳房を圧迫するため痛みを伴うことがあります。

閉経後の方は脂肪組織が豊富になり、しこりが写りやすくなります。



ワールド健康保険組合の乳がん検診

ワールド健康保険組合では、乳がん検診を定期健康診断時または補助金制度で実施しています。詳しくは[こちら](#)をご確認ください。

被扶養者（ご家族）の方も乳がん検診を実施しています。詳しくは[こちら](#)をご確認ください。

症状がある方や、セルフチェックで所見を発見した方は、乳がん検診を待たずに速やかに医療機関（乳腺科 or 乳腺外科 or 外科）へ受診してください。